





あやう春の節 四點



一浦を網は強切るうたにう那

常は舟を放きけ喜此雨

幾まぬ所も中らき能外

同三點

介は来ハ格さまくしむ欠のを

定中明の店あり 柳 花

か女を逐く泊るや 柳 花

常や氷くそれ解く 免

玉造

一 櫛

江戸 野 乙

坂名 野 水

坂名 柳 補

坂名 柳 花

坂名 柳 花

坂名 柳 花

坂名 柳 花

遠近此又中へええ〜かま〜  
漕舫け〜川と成〜  
松原の川程退〜かま〜  
花此なる山へ幕あ〜た〜  
花此あ〜山〜と〜  
藤子二面花ふ二面や春のぬ  
菽入此ふめ〜と藤子や春のぬ  
際〜ち〜樹月お〜下春のぬ  
春るや替此所の花い始

大森 楚秋  
純子 把菊  
羽生 好松  
江戸 荻山  
純子 如露  
子 彌以  
子 弥以  
江戸 吳船  
子 吳船  
仲里

甲 蜂水 二一 端  
三 楚射  
同 夏之部 四 点

花よ詩繼子字や不〜  
今戻る為の車や本〜  
田此中へ結る名不わかし〜  
ふるや秋よ〜ぬ 連 斗

去浦 谷子  
近 谷子  
遠 谷子  
徐 三  
陵 花

同 三点

空一声鳴〜  
叶鳥啼や涼〜  
郭 公  
花 標

江戸 雨柳  
雨 柳

あると此と名投拂やかきつゝ  
其の中八巻此の事や  
唯ふと流すふあり 杜若  
毎天の流るゝかきつゝ  
早乙女を酒のお手やかきつゝ  
垣根ふと流すふあり 杜若  
れ立ぬ振と水は清水  
夏秋の月の流るゝかきつゝ  
ふるや流るゝかきつゝ 日傘

稗田 素雅  
全 訛子 莫山  
今 梅後  
新ケケキ 麟  
瀬東 野乙  
瀬東 利水  
瀬東 古仙  
瀬東 水

ふるや傘提く  
夕立は流るゝかきつゝ  
ふるや流るゝかきつゝ  
拍子ふと流るゝかきつゝ  
春の流るゝかきつゝ  
川風は流るゝかきつゝ  
川は流るゝかきつゝ  
涼しくや流るゝかきつゝ

麟子  
瀬東 玉露  
瀬東 秀蘭  
今 採舟  
史夕  
呉殿  
楚石  
陵花

甲 陵花 二谷子 三面柙

同秋之部四點

明る夜も好しきはやりのる層

外涼

同 三點

早命の一夜りりぬ秋此元

中西 南里

櫻撒さすふまの天の川

蠅水

切く飛ぶ重きもまじくや海層

馬場 西表

初丁やちくくしはまきまき

西表

層傳やま紬子か海北上

西表

初丁やまき夜ハ星も詠めまの

楚石

足不と秋元の隈なりりよの月

大表 喜佐

朝音の海なるとも月見え

梅後

名月や一棟丸き花を

牛場 呉船

ぬまのよあそ人よも見えくは

南里

お敷の裏と表や芽久此を

南里

菊咲やふかちうえの秋と

珠田 西表

秋や葉を離れとまじり

珠田 西表

秋や海へ子色此のり

藤原 梅後

秋や物よも山よも空に

藤原 西表

甲 梅後 = 雨後  
三 外涼

同 冬之部 四 点

石戸よハおく 風や軟此 香  
松ふらち床る 月朧一夜の 香  
初音やえりし事 山ハ弓よ 合以  
見ると此ハ海砂を此ハちりり 外  
麟子

丸一夜千鳥此麻セなすむ所 外  
泉あり 柙此 澁やりさ此 香  
羽田 吳舩  
山

足跡を及ま〜〜 此 香 見り 外  
宮此 軟や 隣り〜 来く 澁り 香  
宮の 月や 目よ 尺也 香 柙 外 斗  
麻直せと 母此 進る〜 何 外  
庭の 時ハ 起せ〜 何〜 外  
枯野も〜 海此 廣うも 香 外  
吹と〜 砂よ 少松や 澁ちりり  
飛沙も 庭 飛く〜 何 外  
橋掃や 柙〜 柙の 字〜 何 外  
野乙

菱山

外涼

柙芦

柙水

仙里

香

梅後

菱山

野乙

子家物も拾くも嬉しき拂  
外涼  
素月

甲林後 二 露之  
三 菱山

惣連六十五吟

四季惣点膳 柳後 三十八点  
二 鱗子 三十七点  
三 渡花 三十六点

松葉庵春之部 四点

常中多々う物々 枝北上 鱗子  
遠山此處よりひへく 鹿 羽山  
籬の日や柳さくさく 如 春 趙砂  
隙うたうう 終月おや春北 辰 吳船

月 二点

嗚々か〜うさ〜いち〜り〜 梅 春 里花  
柳 嗚々 春よ 春 一 辰 愛 春 菱 利水  
只い 一 所 庭の 春 入や 梅 花 古池

常や此のいゝ一落りふも 前 中西 自好

道通此見也ふいふえく事 小 楚秋

常や教をうらやむ 人 里花

常此其極よ言ふ 初喜 如 鑿

常や根盤くく 如 花月

布引此和くく 如 花月

山ハやうの書とりふく 如 花月

喜くくと事 如 花月

上宿此桃よ 碎日や 齧 糸り 菱山

花常も立交 如 離此市 吳舩

甲 趙砂 二吳舩 三里楚

同 夏之部 四 点

さく濁る池も 如 杜 版 女柳糸

夕顔此言 如 と涼 如 瓢以

さく 如 池 如 石柳

同 三 点

船ハ 如 曉 如 把菊

取 如 月 如 見 如 時 如 舟 如 芥 如 老 如 明



田北中へ流る名不やかきつる  
 郭公鳴や清よ 花 標  
 好ふよ春のくまきやかきつる  
 浮歩んよ清く澄や 杜若  
 岩鼻此人よ折れよーしる  
 廻る北流んく流る 流る  
 多きや染も清くも折流る  
 知るや折る人 清く流る  
 流るーしるや横よ折る 流る  
 自好 自好 自好  
 自好 自好 自好

志中ハ知智の如きやかきつる  
 流るーしるや横よ折る 流る  
 羽山 負山

甲雨柳 二柳系  
 三瓢吹  
 同秋之部 四角

湖よ横よふよや 矢此川  
 名月や花此の事よ 登此人  
 好新や元ハーくまき此流  
 把菊 一橋

同 三角

青此の月よ流るかー小社  
 号船

瑞掛とやれとありて此川  
 厚う子け事とよも花や若草  
 知月や喜心有る移る  
 名月や雪く極る若此敷  
 葉吹和肉く照す西原子  
 鶉取はさうさうくられ此秋  
 此秋和州を離れくさうく  
 蟬  
 蟬  
 蟬

甲斐維  
 三把菊  
 水菊

同冬之部  
 四魚

了りく休業せり空うぬ  
 門さく伝く音りくふ此高  
 奈此冬も空く事らちう  
 蜂掃や大りよ運ふ新此梅  
 梅後  
 菊里  
 新原  
 西柳

同  
 三魚

葉の火乃焚力たさ  
 冬こりり焚くへおり  
 言たりや氷此文る水車  
 抄補  
 仙里  
 楚石

老僧此公より湖へさへ河外  
 以燈子塔中を向く火燈子  
 小夜子と筏子傳や川ちと  
 き〜〜と湖水竹目や夕霧  
 吹れ〜ハ朝日ハ西とちと  
 去掃や始と如くハ古こよ子  
 把菊 野乙 吳舩 湖東 尾 桑山

甲 雨柳 二南里 三海路

四季惣名勝<sup>位</sup> 雨柳 三十四点

把菊 三十、 吳舩 三十四点

安永八亥毎月宝評

